

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例

B. 円滑な学位授与の促進

①複数教員による多面的な指導体制の整備

B. 円滑な学位授与の促進

①複数教員による多面的な指導体制の整備

《医療系》

●東京医科歯科大学医歯学総合研究科顎顔面頸部機能再建学系専攻

「歯科医学における基礎・臨床ボーダレス教育」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

多面的な学生指導および研究の質の向上を目指し、学生と所属専攻が同じ主指導教員1名の他に、分野の異なる教員を2名副指導教員とした複数指導体制を整えた。研究の進捗状況については学生および3名の指導教員で年2回の research progress meeting を実施し、報告書をコースリーダーへ提出することで確認したが、一部で教員の参加意識が低い、教員間の意見が対立し学生が困惑する、という例がみられた。それに伴う問題とも捉えられるが、報告書の提出が遅れるという事例が少なからずあった。

(苦勞したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

複数指導体制による research progress meeting については、報告書を提出することにより、学生が所属するコースのコースリーダーおよびプログラム・コーディネーターが問題点を抽出して対策を講じることとしていたが、問題点によっては表面化しづらい場合があり、きめ細やかな対応が必要であることが感じられた。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

報告書の提出遅れについては、最も多い理由はスケジュール調整が困難なためであると考え、期限に遅れても提出するよう文書等で促すという対応を取った。しかし、中には問題が生じているために meeting に消極的である可能性を考慮する必要があり、その場合には別途対応が必要であった。指導教員の変更は理由によらず可能としており、教員の異動やテーマ変更に伴って指導教員を変更する機会が多いようであったが、問題が起こっていても把握できていない例があったかもしれない。

報告書だけでは把握できない問題点などを抽出しやすくする工夫が必要であり、場合によっては指導教員の組み換えなどの対策が必要であったと思われる。具体的に相談先を決めておくと、容易に問題を洗い出すことができた可能性がある。

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例《非公表プログラムの事例》

B. 円滑な学位授与の促進

①複数教員による多面的な指導体制の整備

《非公表プログラムの事例》

B. 円滑な学位授与の促進

①複数教員による多面的な指導体制の整備

●事例5

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

主となる指導教員(主指導教員)に副指導教員(2名程度)を加え、複数教員による指導体制を整備したが、副指導教員の実際の役割はきわめて限定的であった。

(苦労したこと、困難であったこと具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

本学は小規模大学ではあるが、多様な分野の教員が配置されている。そのため、教員の分野が比較的孤立しており、副指導教員の分野が学生のそれとかけ離れてしまうこともままあった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

教員にはたびたび複数指導体制について説明を行ったが、分野の乖離はいかんともしがたい部分があった。

考え方を変え、副指導教員の役割について学問的な指導の割合を低くし、学生生活一般に関する指導・助言等の比率を上げることが必要だったと思う。